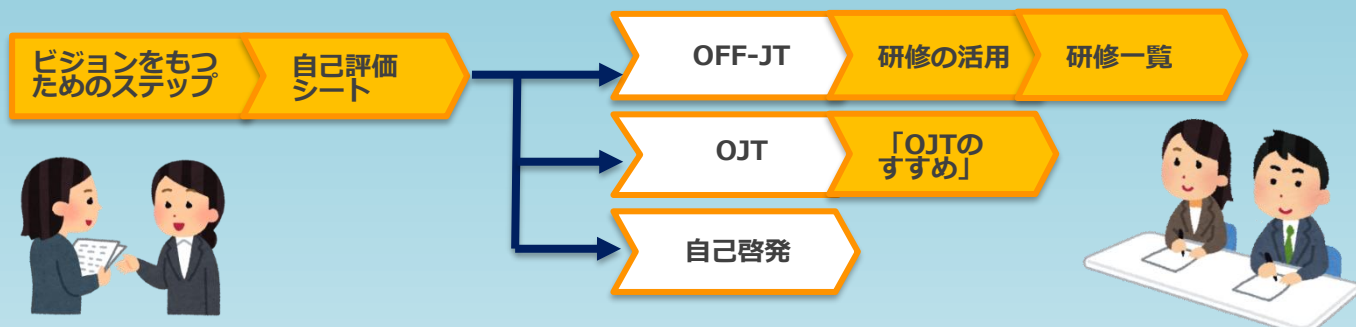




教員としての資質・能力の向上

OFF-JTの中で学ぶ

共通のニーズや経験等を持った教職員が、教育センター等職場を離れて同じ場所に集まり、講義や演習などを通じて知識を習得したり、理解を深めたりすることで資質・能力の向上を図ります。

➡ 次ページ

OJTの中で学ぶ

教員は学校で育つものです。特に初任者は、指導教員や先輩教員からの指導や助言を受けながら学校で日々実践し、省察・改善を繰り返す中で、教員として成長していきます。

日常の業務を遂行していく中で、自己の仕事や業務について振り返り、改善することで資質・能力を高めていくことを「OJT（On the Job Training）」と言います。OJTの中で、実践から学ぶことが大切です。

相互に補完

OFF-JT

OJT

自己啓発

教職経験の少ない教員を含めたすべての教職員

研修を効果的に活用する ～理論と実践の往還～

大阪府教育センターなどで実施される研修には、初任者研修などの法定研修や管理職研修など、その立場や職階にある者が必ず受講しなければならない研修と希望者が応募して受講する研修（講座）があります。

いずれの研修（講座）も、個々の資質・能力を向上させるとともに、各所属校における教育活動を充実させることを目的としています。事前に研修の意義や内容をよく理解し、学校における実践に生かしてください。

また、管理職は、教員が受講した校外研修の成果を、校内で共有する方策を立ててください。



研修受講前

受講を予定している研修の実施要項やシラバスを読んで、研修内容をよく把握しておきます。同時に受講前に課題意識をもっておきます。

▶ 自分の課題は？ 学校の課題は？ 獲得目標は何か？などを簡単に書き出してシラバスなどと比べ、どの部分で学べるか見当をつけておきます。



研修内容の持ち帰り

研修中は、講義、実践発表、協議、演習などで見聞きした内容のうち、所属校で活用できるものは何かを明確にするよう心がけます。研修でワークシートなどを用いることもありますが、ノートなどを用意しておき、要点を自分なりに筆記（メモ）しておきます。

研修により個人の資質・能力を向上させるとともに、校内でその成果を共有し、学校力の向上にも役立てましょう。



研修終了時

研修で理論、方法、実践内容などを学んだ後、具体的にどのように学校で活用するのかという「行動計画」を立て、実践することが理想です。

▶ 所属校で試すことのできる内容を整理します。

▶ 同僚の教員に提示、実践することを呼びかける方法を考えます。

ユニット型研修 ～理論－実践－検証～

大阪府教育センターでは、研修の内容と各学校での実践をつなぎ、実践からさらに学ぶために授業づくりや組織づくり研修の一部で「ユニット型研修」を実施しています。

一つの講座が「理論」「実践」「検証」で構成されており、それをまとめて「ユニット（単位）」としています。

① 理論（集合研修等）

- ▶ 授業づくりや組織づくりのあり方についての理論的な講義を聞き、それを踏まえた演習などを行います。
- ▶ 研修終了までに、所属校での実践の具体的イメージを書き出すなどして実践計画を明確にします。

② 実践（日々の授業）

- ▶ 所属校ではあらゆる機会を活用して、研修で学んだ内容を試行し、振り返ります。
- ▶ 振り返りをさらなる改善に生かし、「実践」を繰り返します。
- ▶ 「実践」の成果と課題を簡潔にまとめ（総括）、「検証」の研修に持参します。

③ 検証（集合研修）

- ▶ 「実践」の成果と課題をもって、「検証」の研修に臨みます。
- ▶ 他の受講者と実践交流し、さらに改善するためのヒントをつかみます。

授業づくりを例にしたユニット型研修のイメージ

① 理論
集合研修等

- 講義…今求められる授業、指導と評価の計画の立て方など
- 演習…単元目標の設定、指導計画の検討、受講者間の交流
- 計画…明日からの指導計画を整理（内容・教材など）

② 実践
日々の授業

- 実践…理論編の指導計画等をもとにした授業実践
- 省察…授業の成果と課題を振り返り、次の授業に反映
- 総括…日々取り組んだ成果と課題の整理

③ 検証
集合研修

- 情報交流…実践の成果と課題を受講者間で交流
- 意見交流…課題解決のための方策について交流
- 行動計画…今後の行動計画を整理

明日からの授業に生かす